

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市環境審議会				
事務局 (担当課)		環境政策課 電話042-769-8240(直通)				
開催日時		令和元年12月6日(金) 午後2時00分～4時00分				
開催場所		相模原市立環境情報センター 2階 学習室				
出席者	委員	14人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	13人(環境共生部長、環境政策課長他11人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1. 開会 2. 議題 令和元年度さがみはらの環境(相模原市環境基本計画年次報告書)(平成30年度報告)(案)について 3. その他 4. 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員、 は事務局の発言)

1 . 開 会

2 . 議 題

令和元年度さがみはらの環境（相模原市環境基本計画年次報告書）（平成30年度報告）（案）について

資料1について、事務局から説明を行った。

p.39の「事業系ごみの適正排出対策の充実」について、市内の中小事業者に対し、戸別訪問を実施することは、非常に効果があると思われる。どのような体制で実施しているのか。

2人体制で本市の取組や廃棄物の区分などを掲載したガイドライン等を配布しながら指導を行っている。

市内の中小事業者の中には、事業系一般廃棄物の出し方を知らない事業者もいる。事業系ごみの適正排出に向け、引き続き指導を行っていただきたい。

p.18の「公共施設へのESCO事業の導入検討」について、道路照明灯のLED化を実施したと記載があるが、LED化だけではなく、太陽光発電施設の普及などいろいろな面で活用方法があるのではないか。ESCO事業の更なる活用について、市の考えを伺いたい。

ESCO事業について、一部の公園灯など、まだLED化が進んでいない箇所があるため、引き続きESCO事業を活用しLED化進めるとともに、今後も民間活力を活用しながら事業を進めてまいりたい。

P.21の本市の自然的特性である森林資源の利活用によるエネルギーの地産地消について、具体的に取組が進んでいないように思えるが、なぜ具体的に進まないのかということを検証する必要があるのではないか。

木質バイオマスの利活用等については、検討を進めているが、間伐材の供給体制の確保が難しいなど課題がある。市の60%が森林という自然特性をうまく活用した取組を検討してまいりたい。

現在、津久井産材の木質チップを大月市や市原市などに供給しているが、運搬コストがかかるなど事業として拡大するには、採算性という面で課題がある。市の森林ビジョンに基づき、津久井地域の特性を生かした取組の検討を行っているが、課題が多い状況である。今後も市の特性を生かす取組を検討する必要がある。

台風による多くの自然災害など、気候変動及びその影響が全国各地で現れており、その対応が求められているが、太陽発電設備や蓄電池の設置を推進することによって、環境面だけでなく、災害対応としても活用できるということを更に PR していただきたい。

市では、太陽光発電設備や蓄電池といった住宅用スマートエネルギー設備導入に係る補助事業を行っており、引き続き補助事業を継続するとともに、気候変動に伴う影響への適応の取組（適応策）を推進していく。

年次報告書のはじめに作成目的を記載してはどうか。相模原市環境基本条例における位置付けや年次報告書の意義などについて、記載があると良い。

P.13 の表について、「成果指標に関する取組状況の概況」とあるが、記載してある内容にあわせ、「成果指標の達成状況」又は、「成果指標に関する取組状況」を記載するのか整理したほうが良い。

成果指標「市全体の温室効果ガス総排出量」の実績について、算定に使用する統計数値の公表時期の関係から、他の成果指標と年度がずれていることがわかるよう記載方法について工夫したほうが良い。

年次報告書の作成目的については、新たに追加を行う。また、指標など記載方法については、ご指摘を踏まえ、修正する。

P.118 の水質汚濁の指標となる BOD の経年変化について、姥川・作の口の BOD の値が高い理由は何か。

姥川はもともと都市下水路として整備されたものであり、未だに、公共下水道に接続されていない箇所がある。そのため、生活排水が一部流れており、基準を超えてしまっている状況が見られる。

P.74 の神奈川県の水源環境保全税を活用した高度処理型浄化槽整備事業について、整備率 20%にとどまっているが、市として積極的に施策を進め、普及率を上げていただきたい。

P.153 の 3 苦情の処理方法では「原因の調査が中心」が一番高い割合となっているが、「原因の調査」を行っていることは、P-152 の 2 発生源の区分け（割合）で「不明」か「その他（不明）」に件数が入るのではないか。

苦情について、電話で問い合わせを受けるが、その発生原因がわからないものが多いことから、その原因を調査するという意味でこのような表現をしている。

苦情の処理方法とは「原因が解明（特定）」されて、初めて苦情処理が実行されるのではないか。

ご意見を踏まえ、今後検討する。

P.94 の主な取組状況「市民ファンドゆめの芽」について、市全体の実績についての記載はあるが、環境分野に関連する実績の記載がないため、加えたほうが良い。

P.94 の主な取組状況「市民ファンドゆめの芽」と同様に P.98 の主な取組状況「協働事業提案制度」についても環境分野に関連する実績の記載がないため、加えたほうが良い。

ご指摘を踏まえ、修正する。

成果指標について、実績の記載があるが、評価の記載がない。市民にわかりやすくするため、成果指標にも評価を加えたほうが良い。

成果指標の評価方法について、検討を行ったほうが良い。また、進行管理指標の評価について、前年度実績との比較のみとなっているが、中・長期的な視点で評価を行ったほうが良い。

成果指標の評価方法については、ご指摘を踏まえ、次回以降の年次報告書で検討してまいりたい。

P.97 の進行管理指標「環境情報システム・環境情報センターのホームページへのアクセス数」について、基準値と実績の数値が大きく異なっている。これは、平成26年度11月にアクセス解析ソフトを変更したことによるためと考えられるが、表の見せ方について、工夫したほうが良い。

ご指摘のとおり、市民に誤解を与えてしまわないよう表記の仕方について、検討する。

委員名簿について、公募委員の「所属・役職」について、他にも環境に関する取組をされている方が多いことから、肩書きを加えたらどうか。

ご指摘を踏まえ、今後検討する。

以 上

相模原市環境審議会委員名簿（敬称略）第3回(令和元年12月6日開催)

	委員名	所属・役職	備考	出欠席
学 識 経 験 者	一色 正男	神奈川工科大学 創造工学部 教授		欠席
	遠藤 治	麻布大学 生命・環境科学部 教授		出席
	大河内 由美子	麻布大学 生命・環境科学部 准教授 (相模原市廃棄物減量等推進審議会委員)		欠席
	岡部 とし子	相模女子大学 栄養科学部 教授		欠席
	亀山 章	東京農工大学 名誉教授	会長	出席
	田中 充	法政大学 社会学部 教授 (相模原市地球温暖化対策推進会議会長)		出席
	南部 和香	青山学院大学 社会情報学部 准教授		欠席
	松本 安生	神奈川大学 人間科学部 教授	副会長	欠席
	吉永 龍起	北里大学 海洋生命科学部 准教授 (相模原市水とみどりの審議会委員)		欠席
市内の 公共的 団体等の 代表者	岡崎 広志	相模原市立小中学校校長会 委員		出席
	北村 陽子	(特非)さがみはら環境活動ネットワーク会議		出席
	佐藤 治男	津久井郡森林組合 代表理事組合長		出席
	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 副会長		出席
	根本 敏子	相模原商工会議所 副会頭		出席
	古屋 伸夫	(特非)かながわ環境カウンセラー協議会 相模原支部長		出席
	山口 誠志	相模原の環境をよくする会 会長		出席
関係行政機関の 職員	鈴木 一成	環境省関東地方環境事務所 環境対策課長		出席
公 募	大久保 和美	中央区在住		出席
	梶山 純	中央区在住		出席
	斎藤 奈美	中央区在住		出席